

17. 広域的な観光振興に関すること

主管：地域振興課

経緯

現在の木曽地域は、「平成の大合併」で6町村となり、馬籠宿を有する旧山口村が岐阜県中津川市と、奈良井宿を有する旧檜川村が塩尻市とそれぞれ合併し、広域行政圏と従来の中山道木曽路のエリアとは一致しなくなったが、長い歴史により培われた「木曽路」という地縁を活かした、圏域を越えたより深い結びつきは継続している。

広域的な観光振興については、平成18年の「観光立国推進基本法」の制定、平成19年の「観光立県長野再興計画」の策定など観光産業や観光振興を重視する諸施策を背景として平成21年度に「木曽地域広域観光振興計画」を策定し、これを指針として9つのプロジェクト（①情報受発信拡充、②木曽とっておきコレクション、③木曽路特産品認証、④スローフード街道、⑤都市農村交流、⑥観光ガイド育成、⑦笑顔・満足度アップ、⑧担い手応援、⑨景観形成）が推進されてきた。

現状と課題

1 災害からの復興

現状 年間600万人を超えた観光客は平成8年をピークに減少を続け、スキー場及びゴルフ場利用者の激減や、通過型観光客の増加等、観光産業を取り巻く状況は厳しい。

また、平成26年9月に発生した御嶽山噴火災害による影響は3年を経過した現在でも深刻な状況で、地元の木曽町や王滝村の御嶽山の観光拠点では噴火前の入込客数の50%にも回復が図れておらず、更に平成29年6月に発生した最大震度5強の地震により追い打ちを掛けられ、地域経済全体に深刻な打撃を与えている。そのため、長野県や郡内町村が多額の資金を負担し、観光事業者が協力する中で様々な事業を展開している。

課題 今後、一刻も早い観光復興を図るため、御嶽山登山の安全対策及び県や郡内町村の協力による継続した取組みが重要である。

2 インバウンド対策

現状 国が掲げる2020年東京オリンピック開催までに海外からの観光客2,000万人達成という目標に向け各地で様々な取組みが始まる中、木曽地域では平成28年4月に「木曽路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～」というストーリーが文化庁から日本遺産に認定された。郡内では、馬籠宿から妻籠宿への馬籠峠歩きが欧米人から圧倒的に人気が高く、平成28年度は23,000人強の人が歩き過去最高を記録し、平成26年度以前の3倍以上の人数となっている。

課題 一部地域に来ている外国人観光客を木曽エリア全体へ誘導するための取組み。

3 交通体系の整備

現状 木曽谷を南北に縦断するいわゆる縦軸については幹線となる国道19号に加え、木曽川右岸道路の整備が行われており、期成同盟会などの組織を中心に要望活動が行われている。また、東西方向の横軸として国道361号（伊那～木曽～高山）や同256号（飯田～木曽～下呂）等による広域観光連携も非常に重要

で、観光連盟や町村による様々な取組みが行われている。

課題 安全で安心な道路整備の要望活動の継続と共に、道路改良等に伴うより広域的な観光連携が必要であり、更には、2027年に東京⇄名古屋間が開業予定のリニア中央新幹線や、スマートインターチェンジ整備に伴う観光活用について、関係機関との協議が必要である。

4 その他の観光資源

現状 国の特区制度を活用して木曾郡内の5町村（木曾町、上松町、南木曾町、木祖村、王滝村）で提供可能となった「どぶろく」については、平成27年度から2年連続で全国どぶろく研究大会において優秀賞を受賞するなど、技術的にも高い評価を得るに至っている。

平成19年11月には「こころのふるさと“木曾路”中山道」が国の風景街道に登録され、木曾風景街道推進協議会が組織され木曾路の美しい景観の維持、保全に積極的に取り組んできている。

また、木曾の伝統野菜である「すんき」は、平成29年5月に農林水産省から（GI）保護制度に基づく産品に登録され、類似品との差別化や知名度の向上などが期待されている。

平成28年には、「木曾路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～」というストーリーが長野県初の日本遺産に認定され、美しい木曾路景観の維持、向上を図るため国や県、市町村や民間企業など、地域を挙げて取り組むことが確認された。

また、平成21年度に木曾地域広域観光振興計画が策定され、広域観光施策として9つのプロジェクトに取り組んできたが、計画の終了を迎える中で、長野県が策定する「観光地域づくり戦略」と併せて新たな観光計画を策定することとなった。

課題 新たな観光資源の掘起こしや、木曾地域独自の観光資源に更なる磨きをかけていくことが重要で、地域住民や関係機関と協力、連携を図って行く。

今後の方針

第2期木曾地域広域観光振興計画（木曾観光地域づくり戦略）に基づく事業推進のための支援や協力を行う。また、新たな交通体系の活用など、広域的な観光振興に関する研究を行う。

施策

- 1 第1次木曾地域広域観光振興計画の一部事業の継続
 - (1) 情報受発信拡充プロジェクト
 - (2) 都市農村交流プロジェクト
 - (3) 担い手応援プロジェクト
- 2 第2次木曾地域広域観光振興計画（木曾観光地域づくり戦略）に基づく事業の実施（木曾観光連盟に協力）
- 3 リニア中央新幹線やスマートインターチェンジの観光活用の研究や関係者との協議